

「第1回甲賀市商工業振興計画審議会」議事録

【日 時】：平成30年4月13日（金） 13：00～15：05

【場 所】：甲賀市役所3階 301A会議室

◎出席委員

名簿：別紙のとおり

◎次第

1. 開会
甲賀市市民憲章唱和
2. 委嘱状の交付
3. 挨拶
4. 自己紹介
5. 会長、副会長の選出
会長挨拶
6. 諮問
7. 甲賀市商工業振興計画策定にあたって
8. 甲賀市商工業振興計画策定スケジュールについて
9. 甲賀市商工業の現状について
10. アンケート調査について
11. 会議の公開について
- 12 その他
13. 閉会

◎会議内容

1. 開会
甲賀市市民憲章唱和
2. 委嘱状の交付
3. 挨拶
産業経済部長挨拶
4. 自己紹介
委員及び事務局自己紹介
5. 委員長、副委員長の選出

委員長 肥塚 浩 氏
副委員長 寺井 喜志雄 氏
委員長挨拶

6. 諮問

甲賀市商工業振興計画の策定について（諮問）

7. 甲賀市商工業振興計画策定にあたって

事務局：振興計画策定にあたって説明

委員：意見なし

8. 商工業振興計画策定スケジュールについて

事務局：今後のスケジュールについて説明

委員：意見なし

9. 甲賀市商工業の現状について

事務局：甲賀市商工業の現状について説明

委員長

- ・説明、ありがとうございました。計画を作るうえで、現状を把握するのはたいへん重要ですので、かなり詳細に調べ、特徴的なことを報告してもらいました。何かご質問、確認しておきたい点、あるいはこういう点はどうだろうと、必要があったら調べてもらうので、指摘していただければと思います。
- ・ちなみに、資料の 22 ページ、民営事業所は「1 事業所あたり」の従業者数ではないですか。

事務局

- ・「1 人あたり」ではなく、「1 事業所あたり」です。

委員

- ・地場産業は甲賀の要だと思っていますが、その中で「信楽焼」の従業者数が 1,400 人から 486 人にまで減ったというのは、どういう背景があるのですか。後継者がいないとか、需要が減っているからとか、職がないからということですか。

委員長

- ・関係者の方が委員でおられるので、説明をお願いします。

委員

- ・データの中の今の生産額は、ピーク時の5分の1。これが現状です。この要因は、生活様式の変化です。信楽焼の出発点は暖房の火鉢で、全国の90%のシェアを占めていました。それを信楽の150社ぐらいのメーカーが全部焼いていました。その後、石油の登場によって全く売れなくなり、その後、青色のナマコ色の植木鉢が全国の80%を占め、植木鉢をいくら焼いても足りない状況でした。
- ・その中で協業化が進み、合理化しようということで、「トンネル釜」を造り、大量生産で売り出しました。ところがそれも時代とともに、コストの安いプラスチックなどのいろいろな素材に食われ、大量生産の「トンネル釜」を有している企業がことごとく倒産し、従業員も減っているのが現状です。
- ・ただ、現在は「六古窯」の特徴を活かしたクラフト製品や作家的なものなど、手作りの分野で活路を見出そうとしています。今、好調なのは風呂の浴槽と洗面器具です。それと、国内マーケットでは限界があるという中で、製品開発を行い、ここ5、6年、海外に向けて新たなニーズを獲得するため、毎年いろんな所に出て、頑張っています。

事務局

- ・補足させてください。タイルの需要が、リーマン・ショック後、建物にタイルを張るような建物が少なくなって縮小してきました。その部分の額が減少したというのが大きな要因で、それに伴って従業員も減ってきました。今、大原委員に言っていただいた手作りのほうであるとか、大物の製品で活路を見出そうということで、苦勞してもらっています。そのこのところはしっかりと伸ばしていきたいと思っています。

委員長

- ・全国的な動向も同じような傾向を示している中で、どのように頑張れるのかということが課題であると受け止めています。

委員

- ・観光の観点で、草津線、信楽線、近江鉄道の利用状況はどうか。

委員長

- ・利用状況は確かに重要なことでもあるので、もし今、分からなかったら、次のときまでに回答してください。

事務局

- ・手元に資料がないので、調べて後日、回答します。

委員

- ・製造業が主要産業ということですが、いわゆる全国資本の大手企業と地場の企業との区別がよく分からないので、大手企業と地場企業を区別した資料をみてみたいと思います。

委員長

- ・製造業でそれは可能なのですか。

事務局

- ・「工業統計調査」の中に、従業員数別や県内市町村別のデータはありますが、大手企業と中小企業で区別した製造品出荷額や付加価値額などは、公的な資料ではなかなか無いというのが実態です。経文と一緒に数値データをあたってみます。

委員

- ・化学工業だと、圧倒的に積水化学工業のウエイトが大きいと思います。

事務局

- ・製薬のウエイトも結構、大きいです。

委員長

- ・製薬も化学なのですね。

事務局

- ・製薬は、甲賀市の中でも大きなウエイトを占めています。その分野の分析をもう少し掘り下げていかないと、見えてこない部分もあると思います。

委員長

- ・地場産業はどこも苦勞している中で、製薬は地場のところも伸びていて心強いと思っています。今、言われた観点から、地場のところと大手、あるいは全国規模で事業を展開しているところの状況が分かるようなことであれば出していただければと思います。正確なものはたぶん出ないと思うので、おおまかな形でも結構です。

事務局

- ・分析がどこまでできるか不明ですが、一度、挑戦してみます。
- ・甲賀市全体で事業所数が減っているのに、従業員数が増えている状況になっているのは、働き口としてはしっかり確保されているけれども、果たしてそれだけで市民が満足しているかは別の問題でもあるので、その点は国のデータなどを使って分析できるかどうか、

一度、検討していきます。

委員長

- ・ありがとうございます。

副委員長

- ・観光業者なので気になっている点ですが、統計として観光客数をカウントされるのに、観光客が立ち寄る所も含め、ほぼ網羅的に、定点観測されていますか。
- ・例えば、旧東海道を歩いている観光客の数は、どういう形でカウントされていますか。

事務局

- ・例えば、東海道を歩いておられて、「東海道伝馬館」に寄られたり、「本陣」に寄られたりという観光客はカウントできますが、ただ通過されたとか、ハイキングをされているとかの観光客はカウントできていないのが現状です。基本的に各観光事業者に照会させていただいて、データをもらうことになっているので、先ほどの資料の外国人についても、日常の買い物をされたとかの形だとカウントされないのが現状です。
- ・「観光入込客統計調査」は県下統一で行っているのですが、これはこれとしてデータとして活用できますが、これだけでなく、地域の観光をどのようにしていくかという視点で、もう少し突っ込んだデータの収集というのが必要と感じていますし、観光協会さんも同じような思いをしていると思います。すべてをきっちり調べることは難しいかもしれませんが、一定の統計学を用いて抽出した調査から全体像をもう少し掘り下げたものにつながるような調査の仕方というものが必要だと感じているので、その点は調査してみたいと思います。また、ご協力をよろしくお願いします。

委員

- ・これを見るとまだまだ観光の伸びしろはあるので、観光協会に考えていただきたいです。

事務局

- ・現状の分析をして、将来に向かってどうするかというのは、マーケティングという手法を含めて必要と思っています。

委員

- ・人数という捉え方をしていますが、年齢層的に、例えば20代はどの業種が多いとか、30代はどこが多いとかの資料があれば、若年層は本来、こういった仕事につきたいのかといった傾向が分かると思います。

委員長

- ・視点としてはおもしろいが、分かるのですか。

事務局

- ・ハローワークの中の就業希望者の統計データといったものはありますか。

委員

- ・求職者の年齢層というのは分かるが、データが限られています。

委員長

- ・雇用の点で、どの年齢層に、どの業種に求職者がいるかということですか。

事務局

- ・希望の職種とか、伸びる業種に対して施策をとれば雇用が増えるというように考えられます。

委員長

- ・年齢では分からないかもしれませんが、どこが伸びるのか、どこに伸びしろがあるのかは分かるかもしれませんね。

事務局

- ・データは「経済センサス」から取っているので、男女別はありますが、年齢層はなかったと思います。人口は、年齢層別があるので、一度、調べてみます。

委員

- ・観光客は、「第二名神」の開通で信楽にも一時、多数来られたが、今は一巡し、落ち着いた感があります。
- ・「信楽焼」と「忍者」が国の遺産になりました。これを甲賀市はどのように活かし、取り組み、企画していくのが問われています。ただ、国の遺産だけでは観光客は呼べないし、それをどういう形でPRするのか、どの場所を観光客にみてもらうのか、とくに、忍者は甲賀市の場所が歴史的に明確になっていません。
- ・このところもストーリーが必要で、早くはつきりしてもらい、忍者と信楽焼をコラボして、もっと外国人観光客を呼べるような取り組みが必要です。宿泊も含めて、食べる所、トイレなど、観光の一つの道筋を考えていく必要があると思います。

委員長

- ・今日はデータ分析による現状把握ですので、いずれまた、そういう意見をもらいながらやっていければと思います。

事務局

- ・今のご意見は、市でしっかりと考えなければいけないし、これは行政だけではなくて、民間が参入し、業として成り立つために、どのように支援できるかという視点で、計画の中でも落とし込めていければと思います。

委員長

- ・現状について、もう少しご意見があれば、どうぞ。

委員

- ・甲賀市の転入、転出のところですが、湖南市と日野町からの転入が多くなっています。出るほうは草津市、大津市、栗東市に転出が多いですね。転出は分かりますが、湖南市や日野町から甲賀市に入られる理由として、何か特徴的なものがありますか。

事務局

- ・理由は分かりません。データには単に数値だけしか出ていませんので。

委員

- ・湖南市は23年、24年が多くて、25年になると大きく減っています。ただ、日野町に関してはずっと転入が多いというのは何か理由がありますか。
- ・また、製造業の工場が多いから、近くに転入してこられるということなのですか。湖南市は、それは当てはまらないと思います。他に何か理由はあるのでしょうか。

事務局

- ・住宅開発が考えられます。大きなニュータウンができると、その関係で移動するところがあるので、その影響で年次的な違いは出てくるのかと思っています。

委員長

- ・他に質問等がなければ、商業関係では、どこも郊外型の大きなものと従来からのいわゆる商店街というところの状況がどうなっているのかということのを定量的、定性的なものもしっかり押さえておいたほうがよいと思います。
- ・製茶は農業だという話はあるが、地場との関係で考えた場合、先ほどの「土山茶」と「朝宮茶」の状況がどうなっているのかということも調べたほうが良いです。地場産業で陶器

と製薬と製茶の3つが重要だと資料にあるので、あったほうが良いと思っています。

- ・貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。
- ・続いて、アンケート調査に説明をお願いします。

10. アンケート調査について

事務局：アンケート調査について説明

委員長

- ・アンケートについての質問、意見、確認しておきたいことがあればお願いします。
- ・かなり膨大な量になっていますので、どうやって書いてもらうかという点はたいへん重要な論点だと思います。
- ・内容も皆さんで精査していただいたら良いですが、作成時に参考にしたものは何かありますか。

事務局

- ・参考にしたのは、3年ほど前に滋賀県が、県全体の産業振興指針を作られたときに実施したアンケート調査です。
- ・そのときには、特に取引関係を聞いています。県内でどれだけ仕入と販売が行われているかという地域内の経済循環、そこにポイントが置かれていましたが、それを今回、入れています。
- ・さらに、企業間連携は、他府県の市でもやっているのので、それを参考にしました。

委員長

- ・1,500か所の事業所を抽出ということですが、各業界団体に協力をいただかないと、なかなか回収が大変だなという感じがします。このまま単に送って、書いてくださいでは、たぶん、なかなか難しいと容易に皆さん思われるので、ここに来ていただいているそれぞれのところでも、あの手この手で行わないと回収率は向上しないのではないですか。これは、たいへん重要なデータにはなると思いますので、ご協力をお願いしたいと思っています。
- ・中身的にはちょっとどうかというのがありましたら、ご指摘いただければありがたいです。

委員

- ・2ページの(7)で、通勤にどのような鉄道を利用するかを参考にしたいと説明されましたが、ここでは、居住地を聞くよりも通勤手段を聞いたほうがよく分かるのではないかと思います。そのデータを鉄道や道路の整備に利用するのであれば、居住地だけを知っても、この事業所にどうやって通勤しているのかということを知らないと分からないので、これではもうひとつ曖昧な気がします。

事務局

- ・交通手段を直接、聞いたほうがよいのではということですか。

委員

- ・通勤手段は、徒歩なのか車なのか鉄道なのか、という聞き方のほうが分かると思います。ただ、それを会社の人から答えられるのか。たぶん通勤手段でいうと、交通費は支給している、従業員は申請していると思うので、分かると思います。
- ・8ページのインターネットの活用状況について、今だったら情報発信は「インスタ」とか「ツイッター」とかいろいろあると思いますが、「フェイスブック」だけに限られるというのは、何か理由があるのですか。

事務局

- ・代表的ということで、フェイスブックを上げています。例えば「フェイスブックなどのSNS」という書き方にしたいと思います。

委員長

- ・そこはそのほうがいいと思います。

事務局

- ・2ページの件は、市の担当者と相談して、修正したいと思います。

委員長

- ・可能なのですか。ちょっと答える人からするとしんどい質問なのではないですか。

委員

- ・集計のあとで、どういうふうにするのかということや、何かの参考にしたいということであれば、質問の仕方も何通りかあると思います。

委員

- ・今の従業員の居住地のところで、確かに総務担当者でしたら、どのぐらいの人がどの通勤手段で来ているのかというのは把握できますが、このアンケートを書く人が誰かによって変わってきます。これは、すごく大事なことだと思うので、会社に来ている人の通勤が自動車なのかJRなのか、その割合ぐらいは簡単に出せると思いますので、そういう項目も入れてもらったほうがいいのではないですか。

委員長

- ・割合だと書けるようなので、工夫してみてください。

委員

- ・このアンケートの1,500事業所の対象はどのあたりの規模を想定されていますか。
例えば、甲賀市内にいろいろな商工業、商店街があると思いますが、商店というのは対象外と考えているのか、そのあたりをどう思っているのですか。

事務局)

- ・基本的には無作為で抽出しますので、商店はもちろん入りますし、小さな事業所も工場関係も入ります。進出企業もあり、さまざまところが入ります。

委員長

- ・「4人未満」も入ってくるということですか。

事務局

- ・入ると思います。

委員

- ・市内や駅前でも商店がなくなっており、甲賀市の先々の大きな問題になってきます。海外販路の開拓などは、このアンケートから見えてくる部分として、それはそれで非常にいい部分でもあります。一方で、現在、問題になっている商店のそういう問題をいかにするかということが、アンケートの結果から活かせるのでしょうか。
- ・このアンケートをやられること自体、非常に多岐にわたっており、非常に細かく精度があり、とくに海外展開など、割合等も出されると思いますが、アンケートのレベルを考えると、商店街の個人商店が果たして、回答してもらえるのか、アンケートの回答が途中で終わってしまうのではないかと心配します。アンケートだから仕方がないとは思いますが。

委員長

- ・アンケートとしては、抽出の方法があるので、それに従ってということですが、それだけ

で終わるとい話にはならないと思います。アンケートはこういう形で進めるにしても、別途、定性的にいろいろなところの話を聞くというようなことは、可能な範囲で行ったほうが良いと思っていますが、そこはどうですか。

事務局

- ・アンケートはアンケートとして実施し、今日は商工会さんにも来ていただいています、商工会の会員さんの声や商店街の声とかを聞いてもらっている部分もあるので、このアンケートを補足するような形で、それをうまく足した中で、計画的にその中でみていきたいと考えています。アンケートだけでやるのではなく、ヒアリングであるとかで補足していかないと、漏れるというか、網羅できない部分があると思うので、いろんな意見を聞かせてもらい、補足のやり方についても相談させてもらい、協力もお願いして、進めていきます。

委員

- ・9ページの33番の、経営の課題・問題等ですが、これは私どもの組織でも非常に参考にさせてもらいたいところですが、「該当するもの3つまで」というところが、もしかしたら経営者の方はもっと数多く選ばれると思いますので、3つというのは何かデータの取り方とかで限られているのか、お教えいただきたい。

事務局

- ・課題・問題点は、該当回答数がかなり多くなると思います。18個の選択肢を用意しましたが、例えば10個ぐらいまで回答されると思います。つまり、課題・問題点の大きなことから小さなことまですべて関係してきます。該当回答数があまり多くなると、アンケートにならないので、大きな課題・問題点として3つまでという形にしました。

委員長

- ・だいたいそれで出てくるということですか。

事務局

- ・出てくると思います。
- ・3つまで「大きなもの」とか、「重大なもの」とかと、書いて質問するのはどうですか。

委員長

- ・「大きなものから」と変えて、補足してもらったらどうですか。

事務局

- ・そのように修正します。

委 員

- ・答えてもらえるかどうか分からないが、平均年収、月給について聞いてはどうか。
- ・甲賀市で働いてもらうためには、月給がどれぐらいもらえるのかというのは、働く人にとっては重要だと思います。それをアンケートに記載できるかどうかはありますが。

事務局

- ・事業所の平均給与ということですか。

委 員

- ・そうです。

委員長

- ・それは厳しいのでは、ありませんか。

委 員

- ・働く人にとっては、月給はすごく重要な指標だと思いますが。

委員長

- ・賃金は、別途、「経済センサス」の中で、甲賀市全体では出ていますが、業種別や事業所規模で出ていたか不案内です。

事務局

- ・「工業統計調査」では現金給与総額を公表するので、製造業は分かります。直近のデータでいうと甲賀市の平均給与はだいたい448万円で、一番従業者数の多い化学工業は528万円です。

委員長

- ・製造業は分かりますが、他は分からないのではありませんか。

事務局

- ・他は分かりません。

委員長

- ・直感的ですが、アンケートではちょっと無理ではないですか。答える人が困るように思います。

委員

- ・知りたいという思いがあるので、意見をだしたということです。

委員長

- ・趣旨は分かりますが、答える人が答えられるかというところちょっと難しいような気がします。書けないのではないかと思います。

委員

- ・平均額だと、ぼやけてしまわないですか。大きな企業だと格差が大きいのであいまいになるのではないですか。

委員

- ・詳しいデータがあればいいですが、絶対、でてこないでしょう。以前、甲賀市のアンケートを聞きましたが、「職が無い」と。職はあるはずですが。無いというのは、そもそも「求める給料の職が無い」という意味だと思いますので、それがどういう水準なのかを知って、その水準を上げる努力をするのが、この場（審議会）のあれ（使命）なのかと思っています。概算でもいいので、上げていけばいいと思います。

委員

- ・平均給与というよりも、入社1年目などの新人の初任者の給与がいくらというもので、ある程度推測してもらえないのではないですか。

委員長

- ・率直に言って、このアンケートには合わないように思います。

委員

- ・事業所によっては若い人が多い事業所、年輩の人が多い事業所と、給与にかなり開きがあると思います。平均というよりは、やはり初任者の給与を目安にしてもらったと思うのですが。

委員長

- ・今、言われた趣旨とは合わない感じがします。それは難しい感じがします。

委員

- ・最終的にこのアンケートをまとめるときに、業種別、規模別で、どこにどういう問題や課

題があるのかを引っ張り出すのですか。業種別、規模別といっても、個人商店から大手企業まで、あらゆるものを引っ張り出せるようなものにしないといけないのではないですか。

委員長

- ・特徴が浮き彫りになるようなクロスを掛けて分析をしていくことになりますので、出せるところは出してもらうことになります。

委員

- ・9ページの(35)で、「該当するものに3つまで○を付けてください」と書いてありますが、「事業展開で事業を拡大する」とか「本社の指示に従う」とかの3つに○を付けるのは多すぎるような気がします。これは1つではないのですか。

委員長

- ・確かに、「3つ」というのは変な感じがします。

事務局

- ・1つです。修正します。

委員長

- ・ありがとうございます。他はいかがでしょう。よろしいでしょうか。
- ・今、幾つも意見をいただき、修正するところも出してもらったので、それを踏まえた形で、あとはどれだけ反映できるかという課題は1つか2つありますが、これでアンケートは進めさせていただきます。ありがとうございます。

1 1. 会議の公開について

事務局：会議の公開について説明

委員：意見無しなしで了承

1 2. その他

- ・次回の開催予定

1 3. 閉会

副委員長挨拶

以上